

# 美空復活2連勝

# 紙相撲新聞

第154回本場所  
初日～二日目号

編集・発行  
日本紙相撲協会

## 若ノ嶋も安定の取り口で連勝

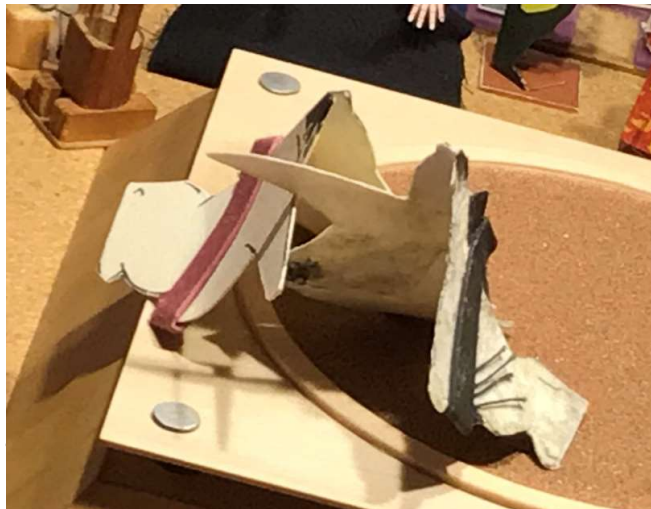
## 春ノ翔は不調、両小結に連敗

【第百五十四回本場所初日～二日目】

9月30日に緊急事態宣言が解除され、10月3日に2ヶ月ぶりに第154回本場所初日が開催された。

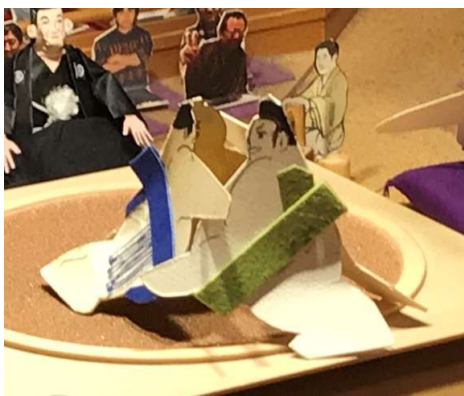
今場所は、魁電が大関から陥落し、元大関の白閃光と大神楽が関脇に返り咲いて3横綱1大関4関脇2小結という変則的豪華番付となった。

今場所は、横綱若ノ嶋の連覇なるか、横綱春ノ翔の復活、横綱美空富士の進退、大関佐賀ノ海の横綱獲り、魁電の



↑初日、美空は実力者出羽翼に先手を取られ、左差しを許すも右上手を掴んで力強く寄り切り、復活を大いにアピールした。

↓若ノ嶋は初日の剛勇山に続き、二日目も英笹に相撲を取らせず、安定した取り口であっさり寄り切った。



初日は新小結の剛勇山と対戦。剛勇山は江戸川部屋として初の三役力士誕生で期待も高く「勝ち越すぞ！」と気合が入る。

大関復帰は如何に、千代鈴と白閃光と大神楽の3関脇の大関争いは、と見どころ満載。非常に楽しみの多い場所となっている。  
幕内は初日と二日目を行ない、三役では、横綱若ノ嶋、横綱美空富士、関脇千代鈴が2連勝と好スタートを切った。  
若ノ嶋は先場所、鬼ヶ嶽に敗れたものの10勝1敗で悲願の横綱初優勝を飾り、今場所は安定感のある相撲で初の連続優勝を狙う。

春ノ翔は、先場所、新横綱としての重圧からか、本来の春ノ翔らしい相撲がみられず、まさかこの負け越したの負けた。今場所からは本来の春ノ翔らしい相撲をと



剛勇山○(寄り切り) ●春ノ翔

若ノ嶋は緊急事態宣言の閑係で満足な稽古ができず心配されたものの、行司軍配が返ると立合いの踏み込み鋭く一気に相手を正面土俵に追い詰める。最後は左を差して寄り切り、万全の横綱相撲で初日を白星とした。



若ノ嶋○(寄り切り) ●剛勇山

リベンジを誓って臨んだ。しかし、初日は英笹の引き落としに敗れ、二日目は剛勇山に立合いから左を差されて寄り切りとなった。緊急事態宣言で十分な稽古ができなかったこともあるが、桐壺親方が横綱美空富士の調整に付きまかしたことも一因目からの奮起に期待したい。

二日目は、先場所、東小結で勝ち越したものの、番付運悪く東小結に留め置かれた英笹。対戦成績は若ノ嶋が4勝として居るが、何を仕掛けてくるかわからず嫌な相手。しかし、若ノ嶋はがっちり掴まえると危なげない相撲で正面土俵に寄り切った。「若ノ嶋、強ていなあ〜！」という声が観衆から上がる。横綱相撲で連覇に向けて好発進した。

今場所に綱取りを賭ける佐賀ノ海。大関3場所目ながら、新大関で10勝1敗で優勝、先場所は9勝2敗で準優勝と抜群の成績を挙げている。「今場所優勝すれば、文句なしで横綱やで、ホンマ！」との声が上がっている。佐賀ノ海本人は至って冷静で、何が何でも横綱にという気持ちではなさそう。もし、横綱昇進となれば紙相撲界初の4横綱となる。



佐賀海○(引き落とし) ●魁電

続く二日目は烏帽子岳との対戦だったが、今度は立合いに低い体勢から一気に出て、そのまま寄り切った。出足鋭い速攻相撲だった。二日間を見る限り、新境地を開いたような新たな取り口で、残り9日間の相撲が楽しみになってきた。これで優勝争いができれば、「復活」の2文字が浮上してくるというものだ。



美空富士○(寄り切り) ●烏帽子

2場所連続途中休場で進退を賭けて出場的美空富士は、場所前に桐壺親方と入念な調整を続けてきた。糖尿病のせいほど、往年の美空富士とは比べものにならないほど痩せてしまっている。先場所は相手に左を差されて一方的に寄り切られる相撲で黒星を重ねたが、果たしてどのような相撲で復活の狼煙を上げるのか注目された。  
初日は先場所初めて敗れた出羽翼戦。立合いにサッと左を差され万事休すかと思われたが、「ここからなんと左を差されたまま、右腕を相手に突きつけるように前へ出て、そのまま出羽翼を寄り切った。「あの体勢で前へ出て勝ったよ！」と驚きの声が上がったが、「稽古場でもああいいう勝ち方勝っていったよ！」と桐壺親方。往年の美空富士とはまったく違う相撲内容だが、力強い取り口で白星発進した。